

名人・達人 評判倶楽部 THE GREATEST PEOPLE

鍛えすぎると 着る物に困ります

PROFILE

東 哲司

(株)アヅマ商会 取締役工場長
出身/熊本県生まれ
血液型/O型
信条/偽らない心
夢/自由に思いどおりに生きること
好きな言葉/別になし
嫌いなこと/後退すること



TETSUJI AZUMA

今回登場していただいたのは、空手の達人として愛産協内でもつとに有名な(株)アヅマ商会の取締役工場長。もしかして武闘派の人だったら・・・そんな心配は東さんの顔を見た瞬間に杞憂に終わった花井さん。まず東さんに、お父様である社長をご紹介いただき、しばし社長と東さん、花井さんと本誌編集者の4人で壁に掛かった超大物黒鯛の魚拓(社長の釣果)をサカナに釣り談議。ほかにもいろいろ話が盛り上がった中でインタビュー開始。

少年の頃はよくイジメられていました

— 先程、九州の出身と伺いましたが、どちらですか。

東『熊本県です。10歳の時にこちらへ出てきました。』

— すると小学校4、5年といったところでワンパク盛りですね。熊本と名古屋では、かなり言葉のニュアンスが違うと思うんですが、転校生の珍しさも手伝って“イジメ”に会いませんでしたか。ま、東さんだったら負けていなかったでしょうが。

東『いや、よくイジメられました(笑)。空手はこちらへ出てきてから始めたんですよ。』

— イジメ対策?

東『というわけではないんですが、少年の頃は強いものに憧れますよね。僕自身、弱かったし。強くなりたかったんですよ。道場は自分で探して来たんですが、当時は生徒も少なくて、先生1人に生徒が6人でした。』

— すると先生との関係も密度が高いですね。先生はどんな方でした?

東『子供心にも“強い”と感じさせる先生でした。生徒が6人じゃ空手で食べていけるわけないので、普通のサラリーマンをやりながら子供たちに空手を教えているという方でした。』

— その先生の教えを受けて、どんどん強くなっていく息子さんをご覧になってお父様はいかがでしたか?

社長『ハッハッハッハーッ!!』(なぜか大きくひと笑い)

東『いや、父親には内緒にしていたんですよ。(ちょっとテレル)

社長『ある時ね、“オヤジ、腕相撲しよう”といってきおった。二段か三段の時かな、それが私にかなわなくてね。あの時は本人も情けなかったんじゃないかなあ。もう今はダメだけどねえ。(と、笑って退席)

— 段を取るというのは、認定試験のようなものがあると思いますが、どんな感じなんですか。

東『昔は、師匠に対してどのくらい技をキメられるか、というのがポイントだったんです。でもこの20年弱で、勝ち抜き形式になってきました。十人組手、二十人組手、三十人組手。これに勝ち抜いて初段、二段、三段という資格が決まるんです。——空手という“型”の練習を繰り返し繰り返し、みたいなイメージがあるんですが、強くなるまでは大変だったでしょう。』

東『(即座に)でも好きでしたから。』

——大学では化学の方を専攻なさったと伺っていますが、受験勉強とも平行して、ずっと続けてこられたわけですね。

東『好きこそもののなんとやらと言いますが、まさにその通りでした。だから続けてこれたんですね。』

——かつては道場を3つもまかされていたそうですね。たくさん生徒さんを指導されていたと思いますが、どのくらいの人数を？

東『ひと道場で数百名、といったところですね。』

——すごい人数ですね。ずっと道場で指導をされていたらしたんですか？

東『そういうわけではありません。もともと私は、日本の最大流派である剛柔流に所属していますが、現在は実戦空手の極真会にも入っています。一時期、極真会に剛柔流の実戦空手派の猛者を紹

介するパイプ役を務めていたこともあります。』

——そういう立場も経験されていたわけですが、“空手の魅力”とは、また指導者として心がけられてきた点はどんなことですか？

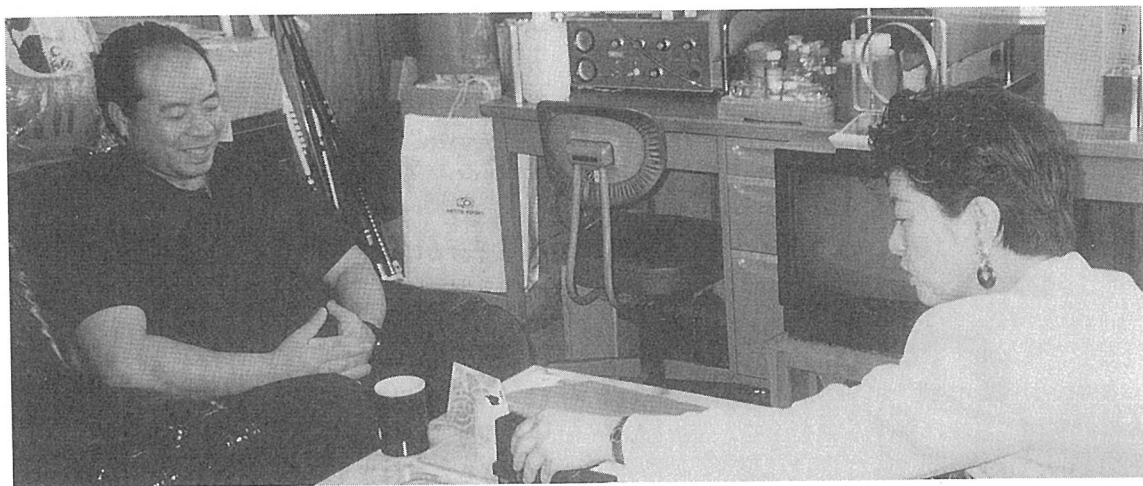
東『人間を超越した強さといいますか、強くなりたいたいという願望を持って皆さん空手を始めるわけです。ならば、それに向けて少しでも早くそれぞれが到達できるように指導していくことを心がけてきました。』

——その集大成として、こうして筋骨隆々のたくましい東さんがいらっしゃるわけですが、空手をやっていてよかった、役立ったということはあるですか？

東『筋力がつき各部位を鍛えることができたこと、これは役立ったと言えるかどうか疑問ですが、自動車事故に遭ってもケガをしたことがないということですね。』

——うーん。それはスゴイ。運だけじゃなく、鍛えられた反射神経と体力の賜物ですね。暴漢に襲われた美女を助けた、なんてご経験はありますか？

東『美女はありませんが、男性を助けたことはあります(笑)。昔は私も血気盛んでしたから。』



ベンチプレスは最高210kg、
 いまでも180kg は持ち上げます

—でも、今はお話ぶりといい表情といい“柔和な人”という印象を受けますね。実は私、もっとコワそうな、いかつい感じの人かなと思って伺ったんですよ（笑）。

東『そうですか？以前はコワそうだとよく言われました。もっと痩せていましたしね。74~75kgくらいでした。いまは90kg近くあります。』

—えっ！！そんなには見えませんよ。確かにシャツから出ている腕はすごい盛り上がりですけど。東『腕は44cm、太ももは64cm、ウエストは85cmです。胸囲はベンチプレスで124cm になりました。』

—その鍛えあげた体をポロシャツがはちぎれそうに包み込んでいる…。

東『74~75kgの頃はウエストも76cmくらいでしたから、ずいぶん変わりましたね。』

—ウエストが76の頃は、絵に描いたような逆三角形体型だったんでしょね。ずいぶん女性にもてたんじゃないですか？

東『…。体型だけじゃダメですね。』

—そうですかぁ？…（疑わしそうな目で東さんを見る花井さん）

東『あんまり鍛えてもダメですよ。着られる服がなくなるから。背広はまったく見当たりませんね。ポロシャツなんかもLサイズなんてまったく着られない…。』

—それはちょっと困りものですね。でも頑健な体を手に入れたと。

東『いや、いま肝臓がちょっと…。』

—空手のやり過ぎで？

東『いや、酒をよく飲むものですから。その関係ですね。』

—それは自分で飲んだんだからしょうがないですね。空手とは関係ない（笑）。でも、空手のトレーニングの後のビールは美味しいでしょうね。東さんが飲みすぎると言われるのもわかるような

気がします。ところで、いまでも毎日生徒さんに空手を教えてらっしゃるんですか。

東『いまは道場に行くのは週に3回くらいですが、私は直接指導するわけではなく、指導員からの質問や疑問に答える、という感じです。』

—すると、指導員のトレーナーというか、顧問的な存在なんですね。そこまでの立場になった東さんが、現役時代を振り返ってご自分の印象的な試合なんてありますか？

東『それがいま思い返してみてもあまりないですねえ。私は評判悪かったんじゃないかな。反則を取られることが多かったんですよ。』

—負けん気が人一倍というのか、対戦になると燃え上がるタイプだったんじゃないですか。

東『けが人が出たこともありましたし…。』

—アクション映画な見ますと、壁をぶち抜いたり、なんてことがありますか？

東『それは実際にもよくありますよ。』

—えっ、ホントにあるんですか？！

東『床もよく踏み抜きました。かかとで蹴ると堅い板でも割れてしまうんですよ。ワザと割るというのもあります。』

—ムシャクシャしてつい、ということ？

東『いや、違います（笑）。例えば道場で生徒を教えている時に、自信をつけさせて生徒をどうしても強くさせなくちゃいけないという時にやるんです。私が突きの入れ方を教えているとします。生徒に突きを入れさせるためにスキを作ってやっても打ってこない。そこで壁際まで追いつめて、ワザと顔面の横スレスレに一発ぶち抜くんですね。突きはこうやって突くんだぞ、と。するとビックリして、ハイわかりましたということに



花井 美紀

(株) コミュニケーションデザイン代表
イベント司会・コーディネーター、
ビジネススマナーインストラクター、
信用金庫協会女子職員講座の専任講師、
TV、ラジオ等で現在活躍中。



なる。身を持ってわかるんですね。それも鍛錬の一つです。そういう場面を見て、“ワァ、すごい！自分もこうなりたい”と思ってくれる生徒は強くなります。』

—なるほど。よく武道は“礼に始まって礼に終わる”と言いますが、厳しい練習を通じて人間形成というか、精神力も鍛えられていくんでしょうね。東『うーん、そうよく言われるんですけどね。やはり年齢とともに、じゃないでしょうか。若い頃は技ができる、まず“使いたい”というのが頭をもたげてくる。黒帯を打ち負かすと気分いいわけで、外へ出てもやってみたくなる。私も昔はそんな若い頃がありました。いま考えるとこわいんですね、相手が武器を持っているかもしれないし、何人もいた場合、多勢に無勢じゃいくら強くてもダメです。』

—年を重ねていくということは、人間関係の経験も重ねるといことですね。そうした中からまず危険とか、叩きのめされるあいての立場や心中、後のことなどいろいろ考えますよね。

東『そうですね、いまケンカしようとか、技を使いたいとかまったく思いませんが。』

—技に心がついてきた、という境地なんでしょうか。ところで先程、胸囲がサイズアップしたおっしゃってましたが、まだ鍛え続けてるんですね。ベンチプレスはどれくらいまで上げられますか？東『180kgくらいですか。かつては210kgまで上げ

ることができました。実は、ハンマー投げのオリンピック選手だった室伏さんとよくトレーニングで一緒になるんですが、この方は240kgなんですね。まったくすごい。ところでこのベンチプレスというのは一人でトレーニングできるものではなく、同程度のレベルの人とペアを組んでやらないとあまり効果が出ないんですね。私は室伏さんほどの高レベルではありませんが、偶然ジムで顔を合わせるとトレーニングを手伝ってくださることがあります。人間的にも素晴らしい方ですね。』

—室伏さんといえば“鉄人”的なイメージがありますが、東さんと一緒にベンチプレスをなさっている場面をぜひ見てみたいですねえ。

東『私はある程度の年齢まで、160kgの線は維持したいと思っています。』

—わぁ、素晴らしいですねえ。ゴルフでも、自分の年齢以内でホールアウトすると、エイジシューターとかいって大変な名誉だと言います。東さんには80歳で90kgくらい上げて話題になっていただきたいですね。(このあと花井さんのためのリクエストに応え、東さん、大人の握りこぶし3個分くらいの石を手刀で見事真つぶたつに。花井さん、リクエストしておきながらしばし呆然…。百聞は一見にしかずとはまさにこのこと、と納得しながら今回のインタビューは終了しました。)

